



第10回日本レーザー医学会総会

会長 : 旭川医科大学・第二外科 水戸廸郎 教授

我々がNd:YAG内視鏡レーザーコアグレーターを用いて、その基礎的、臨床的検討を始めたのは1977年のことであり、消化管出血の止血、胃癌の照射療法、消化器外科領域の無血メスへの応用などが初期のテーマであった。また、He-Neレーザーを用いた鎮痛効果や創傷治癒促進効果などの基礎的臨床的検討も開始した。これらの成果を背景に第10回という節目の本体会を主催する機会に恵まれた。プログラムとしては、招請講演は2件の外国人を含む3件、教育講演1件、4件のシンポジウムと一般口演は、内視鏡が13件、光化学治療が23件、外科系が15件、心血管系が18件、低出力レーザーが16件、皮膚形成外科が11件、機器開発基礎が13件、計測診断が5件、歯科口腔外科が7件の合計121件の演題が熱く議論された。今後のレーザー医療の方向性を示唆する大会になったものと思う。

(水戸教授の原文そのまま)